

第1章 けいはんな学研都市の現状と30年の成果

- (1)経緯と現状
 <主な経緯>
 ・昭和 62(1987)年の学研促進法の施行により国家プロジェクトとしてスタート。構想実現段階～都市の建設段階～建設推進・高度な都市運営の段階を経て現在に至る
 <けいはんな学研都市の3つの特徴>
 ・産学官民の協力と連携、クラスター型開発、文化学術研究施設と住宅の複合開発
 <都市の建設と人口、立地施設等>
 ・文化学術研究地区 3,600ha の約6割が整備済み
 ・鉄道、幹線道路の整備進捗。但し、未整備な路線もある
 ・都市全体で約 24 万 7 千人が居住、持続的に人口増加
 ・129 施設の立地施設、多様な施設・研究分野、研究開発型産業施設の急増
- (2)成果及び評価
 ①社会ニーズに対応可能なクラスター型開発による都市建設の推進
 ②学研都市の総合力の強化推進
 ・文化学術研究機能の向上、多様な立地施設
 ・新産業の創出への取組、実証事業の展開
 ・新産業創出の成果、仕組みが十分と言えない
 ③交流連携を通じた都市の一体性の確立に向けた取組推進
 ・広域的な交流連携、多様な交流機会の創出
 ・拠点間の連携、国際交流の本格的な活動が十分と言えない
 ④高度な都市運営に重点をおいた取組は十分と言えない



第2章 時代潮流

- (1)世界の動きの加速化
 ・科学技術の飛躍的な発展に伴う社会自体の大きな変化の可能性
- (2)科学技術と産業・経済に係る潮流
 ①持続可能社会に向けた課題の深刻化
 ・地球温暖化等の環境問題、資源エネルギー問題、食糧・水問題の拡大、深刻化
 ②経済のグローバル化と科学技術・イノベーションの飛躍的な発展
 ・脳科学、人工知能、再生医療、バイオ、環境、エネルギー、ナノテク、宇宙開発など科学技術が目覚ましく進歩
 ・IoT、IoE の進展による新たな産業・社会の到来(インダストリー4.0 等)
 ③イノベーション推進に向けた我が国の取組
 ・ICT 技術による社会の様々なニーズにきめ細かく、効率良く対応できるスマート社会の到来
- (3)国土の経営に係る潮流
 ①超高齢・人口減少社会の到来
 ・我が国は既に人口減少社会に突入(2100 年には 5,000 万人を切る見込み)
 ②大規模災害のリスク
 ・国土の強靱化とバランスある再配置、自立性のある地域形成が不可欠
 ③国土形成と地方創生に向けた我が国の取組
 ・国土形成計画では、「スーパー・メガリージョン」の形成、筑波と関西学研等を結ぶ「ナレッジ・リンク」の形成を方向づけ
 ・自治体において自立的な地域経営に向け「まち・ひと・しごと創生」の取組の推進



第3章 新たなステージにおける課題

- ①多様な主体が共有できるビジョンの構築
 ・国、自治体、住民、大学、研究機関、研究開発型産業施設、経済界、支援機関等の多様な主体が共有、連携し、それぞれの立場で行動できるビジョン構築
- ②多様な施設立地を踏まえたイノベーションの一層の推進
 ・多様な立地施設の強みを活かし、必要な支援策、仕組みを構築しイノベーション・新産業創出の一層推進
- ③学研都市の一体性の向上や関西における役割の強化に資する都市形成の推進
 ・クラスター型開発の特徴を活かすため、広域及び都市内のインフラの着実な整備、各クラスターの機能充実
- ④科学技術と住民生活・文化の融合
 ・科学技術を活かした生活・文化やけいはんなの歴史的文化価値の活用
- ⑤「高度な都市運営」の仕組みの構築
 ・各立地機関や住民が、本都市への立地や居住のメリットを享受し合えるような高度な都市運営の仕組み構築

新たな都市創造の意義

- ①「高度な都市運営」の視点を発展強化、集積する多様な主体が集積の強みを相互に活用し合うための持続的な「高度な都市運営」の体制を備えた地域の創造
- ②これまでにない新たなまちづくり

プランの主眼 : 「高度な都市運営」の体制及び学研都市の概ね 10 年の方向を示す

プランの位置づけ: 未来に向けたビジョン、行動の指針

第4章 新たな都市創造のビジョン

4-1 文化学術研究都市としての役割

『世界の未来への貢献』: 人類の平和的・持続的共存に向けて、未来への新たな知恵を創出

『知と文化の創造』: 未来社会に向け、知の交流を通じて新しい文化や生活像を創出

4-2 具現化を目指す都市の姿

世界の知と産業を牽引する都市	持続的にイノベーションを生み出す都市	科学・生活・文化・自然環境が融合する持続可能都市
<ul style="list-style-type: none"> ◆世界の未来像を提示 ◆科学技術イノベーションの創造拠点 ◆「ナレッジ・リンク」の中核 	<ul style="list-style-type: none"> ◆好循環を生み出す仕組み ◆オープンイノベーションとインキュベーションの仕組み ◆歴史・文化と結びついたイノベーション創出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆科学技術と生活・文化が融合した未来の社会を先導 ◆持続可能な都市整備の仕組み ◆安全・安心で高質な都市環境 ◆広域のエリアマネジメント

第5章 ビジョン実現に向けた取組

5-1 文化・学術研究の振興

- (1)知のフロンティアを開拓する学術研究の振興
 ・融合による学術研究の推進
 ・幅広い学術研究の連携による世界の未来像へのアプローチ
 ・持続可能社会のための科学の推進
 ・人材育成
- (2)科学と結びつけたけいはんなならではの文化の創造
 ・科学技術と文化の融合
 ・歴史文化研究拠点としての役割発揮
 ・学術・科学に関する教育、学習プログラム等の推進

5-2 イノベーション推進

- (1)イノベーション推進の中核となる仕組みの構築
 ・オープンイノベーションを基軸とし、プロジェクトの創出と推進を一元的にサポートできる仕組みの構築
 ・KICK 等を活用したオープンイノベーションによるプロジェクトの推進
 ・支援機関連携強化による中小・ベンチャーの共同開発促進
 ・実証等への住民参加や特区活用等、本都市の優位性を活かした取組推進
- (2)研究拠点や地域産業との連携
 ・府県域を超えたイノベーション支援機関ネットワーク構築
 ・国等の研究機関による本都市の研究機能の強化等
 ・筑波研究学園都市等との連携による研究開発の支援強化
 ・地域産業との連携
- (3)世界への展開
 ・海外のサイエンスパークとの交流・連携促進を通じた立地機関の海外展開支援
 ・国内外の研究者が集い、活発な交流を促進する環境の整備
 ・国際会議や学会等の誘致
 ・海外の有力な教育・研究機関や企業の誘致推進

5-3 都市形成

- (1)世界に先駆けスマートな暮らしを育むまちづくり
 ・ICT を活用し生活の質を高める暮らしの推進
- (2)世界に誇る歴史や文化、自然の息づくまちづくり
 ・日本古来の歴史、文化を身近に感じられる暮らし
 ・圏域一帯の豊かな自然環境を活かした活動の推進
- (3)都市の多様性を高める土地利用の推進
 ・多様な施設の立地推進と機能連携
 研究開発力強化に向けた研究機関等の誘致
 生産施設等の導入検討
 ホテル等コンベンション機能の充実・強化等
 ・基盤整備が完了していない地区の整備等推進
- (4)国内外の対流を促進する都市モビリティの向上
 ・国土軸、関空、母都市とのアクセス強化
 道路: 国道 163 号線や山手幹線等の主要道路の整備促進
 鉄道: JR 片町線(学研都市線)及び JR 奈良線の複線化の促進と近鉄けいはんな線の延伸協議
 ・中心地区とクラスター、クラスター相互のネットワーク強化
 ・公共交通サービスの充実と ICT を活用した交通システム等の導入検討
 ・スーパー・メガリージョンとナレッジ・リンクの形成に資するインフラ整備の検討

5-4 都市運営

- (1)新たな都市創造に向けたネットワークハブの構築 — 新たな都市創造会議
 ・情報及び認識の共有、取組みの評価及び更なる展開方向の決定等
- (2)3つの分野における連携・協働の新たな仕組みの構築
 ・文化・学術研究の振興に係る仕組み、イノベーション推進に係る仕組み、都市形成に係る仕組み
- (3)都市運営の基盤となる情報の集約・発信の仕組みの構築
 ・立地機関や関係機関が連携して効果的な情報の集約、発信を推進していくための仕組み